

福岡県で初めての認定介助犬

白木さんと介助犬ロータス

県内初の厚生労働省認定介助犬の誕生を祝って5月16日、市健康福祉センターふれあいいで、祝賀会が行われました。

この介助犬は、市内に本部を持つ九州補助犬協会で訓練されたロータス。車いすなど、身体の不自由な人の日常生活を助けます。飼い主の白木さんとロータスは、この3か月、認定試験に向けて猛特訓を重ねてきました。

九州初の認定介助犬も、半年前にこの施設から誕生し、現在、宮崎県で活躍しています。



指示どおり、床に落ちた物の中から携帯電話を選び、白木さんに渡す

チェーンソーで間伐を体験

二丈ふるさとの森林づくり

5月22日、浮嶽の大紅葉周辺の山中で、二丈ふるさとの森林づくり活動の一環として、チェーンソーを使つての間伐体験が行われました。

参加者には、福岡市民や春日市民もいました。腰のベルトに鋸や手斧を掛け、まずは、間伐をするときの注意点などの説明を受けました。

初めてチェーンソーを使う人もいて、最初は、おっかなびっくり。しかし、安全な取り扱いなどの説明を受け、何度か練習をするうちに、使いこなせるようになっていました。



倒す方向を決め、木にロープを掛け、切る位置を決め、エンジンスタート

九大とコラボするお祭り

さすがは伊都祭、やっぱり伊都祭

地域と大学が連携して開催する「伊都祭」が5月29日、九大伊都キャンパスで開催され、1万人以上の来場者でにぎわいました。

伊都祭は、大学と周辺地域の市民で実行委員会を立ち上げて開催する、全国でも類が少ないお祭りです。今年で4回目を迎えます。

会場には、地域物産や学生サークルなどのブースを設置。九大では、春の「伊都祭」、秋の「九大祭」と位置付け、地域と大学の連携をさらに深め、相互の発展を期待しています。



地域と海外の食が並ぶ……写真は、インドのナンを焼くブース

市民組織でいよいよスタート

113人が登録、いとしま市民大学

旧志摩町で15年の歴史を持つ志摩町民大学が、市民有志によって、新たに交流しま専科「いとしま市民大学」として開講しました。

開講式は5月29日。この日は、県男女共同参画センター前館長の中嶋玲子さんの記念講演が行われ、約100人が参加しました。

市民大学は、多彩な講師陣による6回の合同講座と選択制の自然探訪、ウォーキング、野菜作り、歴史講座の4講座があり、「豊饒の糸島」が満喫できます。



旧杷木町での経験を基に、男女共同参画の必要性を熱く語る中嶋さん

いとしまの海岸線をきれいに

市内各地で海岸のクリーンアップ

6月6日、加布里漁港をメイン会場に市内各地の海岸線や水辺で「クラブアース・クリーンアップ2010」の取り組みが行われ、およそ1000人の市民が参加しました。

集められたごみは加布里漁港で2t以上。粗大ごみはほとんどありませんでしたが、プラスチック容器や漂着した漁具なども目立ちました。

ごみには、韓国から流れ着いたと見られる冷蔵庫などもあり、参加者たちは国境を越えた取り組みの必要性を感じていました。



美しい海岸線を守ろうと、市内各地で海岸清掃(写真は加布里漁港)

九大の知の力をまちづくりに

九州大学との協力協定書を締結

九州大学伊都キャンパス稲盛財団記念館で5月29日「国立大学法人九州大学と糸島市との連携協力に関する協定書」が結ばれました。

この日は、九州大学の有川総長と松本市長が出席し、相互に連携し合いながら、新産業の創出や地域課題の解決など、地域社会の振興に取り組むことなどを確認しました。

現在、社会保障カードの実証実験をはじめ、数多くの連携協力を行っており、今後、さらにお互いの関係が緊密化していきます。



相互協力を確認し、固い握手をする有川総長(左)と松本市長(右)